

環境学習みえ

2012年12月／三重県環境学習情報センター（四日市市桜町3684-11）年4回発行
表紙の人／池田 比早子さん（NPO法人 海虹路） 2012 No.51

冬

尾鷲ひのき

〜人と森林をつなぐ〜

こどもエコクラブ
センターニュース
・今月の企画展示
・講座のご案内ほか



尾鷲ひのき

～人と森林をつなぐ～

三重県環境学習情報センターでは自然素材などを利用した作品づくりを通して、身近な環境問題に目を向けていただくために「環境工房」という講座を開催しています。

今回は、来春開催する「環境工房」で「ひのきシートでつくる行燈」の講師を務めてくださる海虹路の活動をご紹介します。



作：池田 比早子さん
写真提供：尾鷲市

「ひのきシートの利用方法」は池田 比早子さんの特許です。



写真提供：尾鷲市

尾鷲地域の急峻な山では、雨によって養分が流されやすいため、土壌は痩せています。尾鷲ひのきはこの厳しい環境のなかで長い年月をかけてじっくりと育ちます。

温暖な気候で、雨の多い尾鷲地域で育った尾鷲ひのきは、年輪が緻密で耐久性に優れており、良質な木材として知られています。この尾鷲ひのきを使用した「ひのきシート」を考案したNPO法人海虹路の代表を務める池田さんは、尾鷲市を中心にクラフト体験会や環境学習会を行っています。

今回は活動のきっかけとなったひのきシートの魅力や、地域の自然を保全する活動についてお話を伺いました。

お話を伺った人



NPO法人 海虹路
代表 池田 比早子さん

平成14年
・第12回ホビー大賞
・「文部科学大臣賞」受賞
・三重県文化賞「文化新人賞」受賞



NPO法人 海虹路のみなさん
現在、女性を中心に10人ほどのメンバーがいます。体験会などで人と交流できることを楽しんで活動しています。

ひのきシートの誕生

平成11年に開催された『東紀州体験フェスタ』の時、アートフラワー講師をしていた池田さんに、来賓の胸飾りを作って欲しいと依頼がありました。

「尾鷲らしい素材を使って、胸飾りを作りたい」と考えた池田さんは、捨てられているかんなくずを花びらに見立てて、コサージュを作ることを思いつきます。そして試行錯誤のうえ、約60人分ものコサージュを完成させました。

捨てられるはずだった「かんなくず」は、池田さんの手によって、美しい花へと生まれ変わりました。以来、尾鷲ひのきを薄く削ってシート状にしたものを「ひのきシート」と名づけ、作品づくりに励むようになりました。



ひのきシートは毛糸のように伸びないので編むにはコツが必要です。

ひのきシートのクラフト作品



⑤「ブリーケ」実際の結婚式で使用されました。⑥「行燈」飾りの部分は、ひのきシートを染めてあります。すべて池田さんの作品。

田原屋



ひのきシートの製品は田原屋で購入することができます。お店は尾鷲市街に残る旧熊野街道沿いにあるので、熊野古道を歩くお客さんも多く訪れます。

三重県尾鷲市中井町7-24
TEL 0597-22-0470
営業時間 10:00~18:00
※不定休(お問合せください)



「ぞり」履くほど柔らかくなり、足に馴染んでいます。



「へむへむ」(食器用たわし) 洗剤を使用しなくても汚れが落ちると評判です。



「ひのき割箸」防腐剤などを使用していないので安心して使えます。



削ったばかりのひのきシートからはひのきのよい香りが広がります。

ひのきシートはしなやかなので、編む、織る、染めるなど、様々な使い方ができます。その特性を活かし、ぞり、うちわ、行燈など数々の作品が生まれました。

池田さんは作品を地域づくりに役立てようと、自分が持っている技術を他の人へ伝え、広げていくため、平成16年に海虹路を立ち上げました。ひのきシートを使ったクラフト体験を通して、「尾鷲ひのきや、それを取り巻く自然環境について、たくさんの人に知って欲しい」という想いがあったからです。

尾鷲ひのきを守りたい

池田さんをはじめ、メンバーのみなさんは学校や公民館などで、クラフト体験会を行っています。また、さらに活動の輪が広がっていくようにとインストラクターの育成にも力をいれています。

池田さんが考案した大人気製品「へむへむ」は、ひのきシートを編んで作られた「たわし」です。このように編むために使用するひのきシートは、編みやすい厚さなどの要望にあわせて、近

所にある山本木工所の山本昌^{あき}さんに特別に削ってもらっています。

ひのきシートは丸太から柱材を取って、残った外側の部分を利用していきます。池田さんから注文を受けると、山本さんはシートが一定の幅や長さ、厚さになるように調整しながら機械で削っていきます。何百枚も等しく削ることができるのは、長年培ってきた技術があるからです。山本さんは元は建具職人でしたが、30年ほど前から尾鷲ひのきの木工所を始めました。高級木材といわれる尾鷲ひのきをもっと身近に取り入れてもらいたい、まな

板やすのこなどの日用品を中心に製作しています。

山本さんは「尾鷲ひのきの良さをたくさんの人に知ってもらいたい」という同じ想いを持っているから、池田さんに協力したいんだと話してくれました。

現在、木材価格は低下し、採算が取れないために林業従事者は随分と減ってしまいました。かつて尾鷲市内に多くあった建具屋もほとんどが辞めてしまったそうです。このような状況のなかで、「植える・育てる・伐る」という緑の循環がうまく成り立たなくなっています。

森林の大切さを伝える

尾鷲市内のほとんどの小・中学校では、在校生が卒業生のために、ひのきシートでコサージュを作っています。「尾鷲ひのきを地元の子どもたちに知ってほしい」と、池田さんから学校に声をかけたことで始まり、この取組は10年以上続いています。

卒業生を思いながら、薄いひのきシートが破れないように1枚ずつ丁寧に花びらを作っていきます。また1年後、自分の卒業式で在校生からコサージュをもらおうと、作る大変さを経験している分、感動も一層深まります。

最近ではコサージュ作りだけでなく、尾鷲ひのきを使った色々なクラフト体験を学校の授業で行うようになりました。そのなかのひとつに「マイ箸づくり」の授業があります。子どもたちはのこぎりやナイフを使って、自分の手にあった長さの箸を作ります。普段あまり使うことのない道具での作業ですが、慣れると上手に使いこなしています。お箸を完成させた子どもたちは、「持ち歩いて、外でご飯を食べる時にも使う」などの感想を聞かせることができるそうです。

コサージュや箸づくりなどのクラフト体験は、木の温もりや、香りなどを感じてもらうだけでなく、自然のものを大切に扱うことも伝えることができます。また、クラフトの材料は主に間伐材を使用しており、池田さんは授業のなかで「伐ってはいけない木・伐ってもいい木」・「伐らなければいけない木」があるというお話をしています。

み出してきました。森林には土砂の流出や山崩れを防いだり、水を蓄えるなどの多面的機能があり、私たちの暮らしを守ってくれているのです。現在は国内産の木材の利用が減り、伐採しても新しく植林できない山や、手入れ不足の森林が多くなっています。池田さんは授業を通して「伐らなければいけない木は、積極的に使うことが必要です。そして伐った木は最後まで大事に使ってあげよう」と子どもたちに伝えています。



子どもたちの心に届くように、わかりやすくお話しします。



⑤角材をナイフで少しずつ箸の形に削っていきます。
⑥焼きごてで好きな絵を描いたら、オリジナルのマイ箸の完成！

伐ってはいけない木…「原生林」など

自然に生えている森林のなかでもほとんど人間の手が入っていない森林。日本には屋久島などに原生林が残っています。

伐ってもいい木…「人工林」

木材の生産などを目的として、人間が苗木を植えて育てた森林。日本の人工林はスギ・ヒノキがほとんどです。

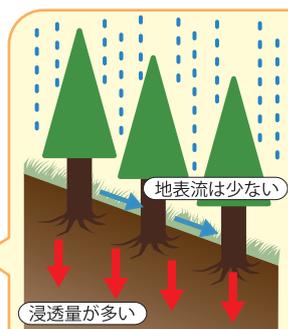
伐らなければいけない木…「間伐」

苗木を植え、木々が成長してくると、一部の木を間引いて（間伐）、残った木の成長を促します。このように伐られた木のことを間伐材といいます。

間伐した森林



地面にも日光が届き、下草が生え、栄養豊富な土壌となります。木の根は地中にしっかりと張っています。



浸透量が多い
地表流は少ない
地中にしっかりと張った根は、土砂の流出や山崩れを防ぎます。土壌はスポンジのように水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働きがあります。



山に緑が増えていくことが、地域の人々の楽しみです。

持続可能な森林を目指して

尾鷲市曾根町に森林伐採後、放置されていた山がありました。海虹路では、その山を自然林に戻そうと植樹活動を始めて今年で5年目を迎えます。

1年目に植えた苗は、台風や動物の食害などにより、思うように根付きませんでした。しかし足を踏み入れてみると、以前はシダに覆われていた山に、多種多様な植物が生えていました。山の様子が変わっていることに気づいた池田さんは「山を再生するために、人が手助けをすることが大事なんだ」

と感じたそうです。

その後はエレコム株式会社による寄付で「三重自然の森づくり基金」が創設され、長期的な森づくりができるようになりました。ヒノキなど生産を目的とした木は植えず、この地域本来の樹種を植えて自然林への再生を図っています。

今年10月に行われた『第4回エレコムフォレスト植樹会』には地域の人やスタッフを合わせ、約170名が参加しました。植樹会は海虹路と森林組合おわせが中心となって準備を進め、県や市、地域の人たちの協力を得て開催しています。

森林組合おわせの指導のもと、ヤマザクラやクスノキなど広葉樹の苗を550本植えました。参加者は植えた苗に名前とメッセージを付けて今後の成長を見守っていきます。

山を育てるのは50年、100年の単位と長い年月がかかります。地域の人や子どもたちが森づくりに関わることで、持続可能な森林の再生と、地域の自然環境を守ることに繋がっていくのです。

森林の資源を活かす

ひのきシートを使った作品には、尾鷲ひのきの赤みがかった木目の美しさが表われています。時間が経つにつれ、その色艶や深みが増していくのを楽しむことができます。ひのきシートは木の魅力をさらに広めることができる新しい手法だといえます。

尾鷲ひのきという地域資源を活かした海虹路の活動は、人と地域の自然をつなぐ役割を果たしています。さらに尾鷲ひのきが新たな形で活かされることで、林業とそれにつながる産業の活性化が期待できます。

私たちが暮らす三重県は面積の約3分の2が森林です。森林は私たちの生活に多くの恩恵を与えてくれます。健全な森林になるためには、私たちが木の製品を使うことで、人工林がきちんと手入れされていくことが大切なのです。

そこで三重県環境学習情報センターでは環境工房「ひのきシートでつくる行燈」を下記のように開催します。尾鷲ひのきを使った作品づくりを通して、木が持つ新たな魅力を感じてください。

写真提供 NPO法人海虹路

環境工房

ひのきシートでつくる行燈

あんどん

締切
3/16(土)

ひのきシートを透して優しいあかりが灯ります。持ち運びができるのも便利です。この行燈で、ひのきがほのかに香るお気に入りの空間を演出してみませんか？

日時 **4/13(土) 13:00~15:30**

講師 **池田 比早子氏 (NPO法人 海虹路)**

会場 **三重県環境学習情報センター**

募集人数 **30名** 材料費 **1,000円**

持ち物 **はさみ・洗濯ばさみ (20本)・筆記用具
行燈につけたい飾り (切り絵や押し花など)**



アオツルを使った籠づくり

環境工房の始まりとなったこの講座は今年で4回目を数えました。今や環境工房には、なくてはならない講座です！



環境工房とは？

環境講座というと「難しそう」と思われるかもしれませんが、誰にでも興味を持っていただけるような環境の入口講座としてつくられたのが「環境工房」です。環境工房ではこれまでに「ひのきシートでつくるコサージュ」や「草木染め」、「押し花の壁掛け」、「ミニ門松づくり」などの講座を開催してきました。毎回、身近な自然環境の問題について、簡単なお話も入れています。

気軽に、楽しく、ご参加いただけるのが「環境工房」です。是非、お申込みください！



がんばって
います!



こどもエコクラブ

～三重県のこどもエコクラブ活動紹介～

こどもエコクラブなばり

(名張市)

- ・メンバー数 3名
- ・サポーター数 2名
- ・クラブの構成 家族・友達
- ・代表サポーターの谷本さんに聞きました



いつどのよう
にできたのですか?

上の孫が『こどもエコクラブ』のメンバー対象年齢に達したのが第一の理由です。また自治会のお世話をしていたので、地元のごどもたちにも環境について考える場が必要だと感じたのが第二の理由です。

以前から環境問題には関心を持って取り組んできました。赤目四十八滝、谷保勝会と三重県環境学習情報センターがインタープリター養成講座を開催されましたので参加し、一緒に研修した皆さんと地域、特に赤目を中心に活動しています。そのなかでもごどもを中心と考えていく必要を感じ、並行して活動する場として『こどもエコクラブなばり』を発足しました。



どのような活動を
していますか?

●赤目地域では
◇春の赤目里遊歩ツアー ◇赤目梅林
収穫体験 ◇蛍ツアー & 赤目滝ライト
アップ & キャンドルナイトなどです。

この活

動では、蛍の観察のほか、日本サンショウウオオセンターを見学し、サンショウウオの夜間の活発な活動を観察できました。また、今後も地元の釜石川での蛍の観察を継続して行いたいと思います。



赤目溪谷

●自然観察関係は

◇金環日食を見よう ◇七夕の集い ◇地神の大村神社と木津川上流 ◇テラウェアの収穫 ◇淀川の上流へ ◇ブドウ観察会(ふじみのり・紅ふじ) ◇ブドウでジャムづくり ◇秋の収穫(巨峰、ポップコーン、サツマイモ)などです。

秋の収穫では、収穫した巨峰を一般に売っているものと比べて観察し、粒の表面の様子や軸の色の違いなどにびっくりしました。



秋の収穫



どのようなことを
ごどもに伝えたいですか?

重複している部分が多いのですが、様々な活動を偏ることなく実施することが大切だと思っています。さらに今後は、化石関係に深く興味を示しているメンバーがいるので、伊賀市の服部川や鳥羽市などにも活動の場を広げていきたいと思っています。

単に見たり聞いたりするだけでなく、実際に触り・聴き…主体的に取り組む姿勢を身につけることが大切だと思っています。そして活動するなかで、少しでも自ら学ぶ姿勢を育むことができればうれしいと思います。



日本サンショウウオセンターを見学しました

こども エコクラブとは

- 入会費・登録費無料
- お問い合わせは環境学習情報センターまで

幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。こども達の興味や関心に基づいて、身近な地域の中でできる活動に自由に取り組みます。仲間が集まればどんなグループでも「こどもエコクラブ」として登録して活動を始めることができます。



こどもエコクラブ イメージキャラクター「エコまる」
<http://www.j-ecoclub.jp>



冬限定キャンペーン実施します! 2013/1/15(火)▶3/22(金)

パックテスト無料キャンペーン

水質チェック(出前講座)で使用するパックテストが無料!
詳細はセンターのホームページをご覧ください。



生活排水が川や海の水を汚していることを実験によって理解し、自分たちに何ができるかを考える体験学習です。

食器を洗った水や洗濯した水、川の水などのさまざまな種類の調べたい水を事前に準備していただき、CODパックテストを使って水の汚れ具合を測定します。そして汚れた水を流さないためにできることを考えます。

「水質チェック」

時間 60分~90分

人数 50人まで

対象学年 小学4年生以上

用意する物 調べる水



環境活動のPRができる!

今月の企画展示



9月

コープみえ環境(委)グループ「みどりの木」

コープみえ環境(委)グループ「みどりの木」は、伊賀・名張の生活協同組合コープみえの会員が中心となって始めた環境活動グループです。

グループでは毎年夏休みに、地域の小学校や公民館などに呼びかけて、名張川に住む生き物を調べる「親子リバーウォッチング会」を平成8年から行っています。平成23年には長年の活動が認められ「みえ環境活動賞」を受賞されました。展示ではリバーウォッチング会の様子や今までの調査結果をまとめた冊子も展示していただきました。



10月

坂下星見の会

坂下星見の会では、亀山市坂下の美しい星空をもっと多くの人に見てほしい、宇宙をもっと身近に感じてほしいとの想いから星空観望会やイベント、光害についての啓発活動などを行っています。

平成23年度にはこうした活動が評価され、環境省「星空の街・あおぞらの街」全国協議会会長賞「天の川賞」や「みえ環境活動賞」を受賞されました。

展示では、活動の様子や参加した子どもたちが星空への想いを書いたキャンドルの風よけなどを、星の写真とともに紹介していただきました。



11月

花王株式会社

花王株式会社では環境に配慮したモノづくりを目指して、エコな活動に取り組んでいます。原材料を選ぶところから、製品を作って、運んで、使って、ごみに出すまでの、すべての段階で環境への負担を減らす努力をしています。

展示では「いっしょにeco」をテーマに、私たちの生活の中でできる「eco」なことをパネルなどで紹介していただきました。洗濯、お風呂、キッチンなどで...どんなことをすれば、環境にやさしいのか学ぶクイズもあり、子どもから大人まで楽しく参加していただきました。



ようこそ!&訪問しました

9月

三重県環境学習情報センターでは社会見学・環境学習の受け入れを行っています。

環境学習情報センターに来館してくれた小・中学校	
桑名	大山田東小学校(1年)
東員	笹尾東小学校(4年)、城山小学校(2年)、稲部小学校(4年) 神田小学校(4年)
菰野	菰野小学校(4年)
四日市	県小学校(4年)、河原田小学校(4年)、神前小学校(4年) 八郷西小学校(4年)
津	北立誠小学校(4年)、大里小学校(4年)、西が丘小学校(4年) 片田小学校(4年)、豊津小学校(4年)、豊が丘小学校(4年) 上野小学校(4年)、南立誠小学校(4年)、白塚小学校(4年)
名張	梅が丘小学校(4年)
多気	勢和中学校(1年)
伊勢	上野小学校(5・6年)
京都	同志社国際学院(小学3年)

環境学習情報センターが出前授業を行った小・中学校	
いなべ	石榑小学校(1~6年)、阿下喜小学校(4年)
東員	神田小学校(4年)
四日市	羽津小学校(5年)、常磐西小学校(1~6年)、富洲原小学校(5年) 八郷小学校(5年) 下野小学校(5年)
鈴鹿	国府小学校(5年)、清和小学校(5年)
津	三重大学教育学部附属小学校(2年)、豊が丘小学校(4年)
伊賀	中瀬小学校(4年)、壬生野小学校(4年)
伊勢	城田小学校(4年)、豊浜東小学校(4年)
志摩	越賀小学校(2・3年)、片田小学校(4年)
熊野	五郷小学校(5・6年)

環境学習情報センターの講座情報 講座NEWS

講座内容は、都合により変更になる場合があります。

PICK UP 環境リーダーを養成する講座がお近くで開催できます。

学校の先生の場合 地域NPOの場合 自治体の場合

2～3時間の研修にご利用ください。 メンバーのレベルアップにご利用ください。 市町での環境活動を増やすきっかけにご利用ください。

主催講座を出前講座としても実施できます。詳しくはお電話下さい。

講座名	開催日	開催場所	申込締切	内容
環境学習指導者養成講座 環境学習リーダー養成講座 アクティビティ体験コース	1月13日(日)	サン・ワーク津 研修室	12月18日(火)	参加型プログラム(アクティビティ)を通して、ESD(持続可能な開発のための教育)について学び、ファシリテーター養成コースにつなげます。
環境学習指導者養成講座 環境学習リーダー養成講座 ファシリテーター養成コース	2月3日(日) 2月9日(土) 2月16日(土)	サン・ワーク津 研修室	1月15日(火)	地域や学校、職場で参加体験型学習をコーディネートし、ESDの考え方を広める担い手を養成します。
スキルアップ講座 共存と絶滅	2月2日(土)	三重県生涯学習センター 中研修室 (三重県総合文化センター内)	1月10日(木)	恐竜の絶滅が教えること
スキルアップ講座 地球温暖化～今を知り地域から未来を変える～	2月10日(日)	サン・ワーク津 研修室	1月19日(土)	第1部 気候変動の影響 第2部 地域活性化につながる温暖化対策
スキルアップ講座 森林環境教育指導者スキルアップ講座	2月23日(土)	三重県民の森 ふれあいの館	1月15日(火)	講義 「日本人の森の思想」 野外実習 県民の森で樹木観察
こども環境講座 電気ペンを作ろう!	1月19日(土)	四日市市環境学習センター 環境学習室	1月7日(月)	なぞったところが赤色や黄色に変わるふしぎなペンを作ります。どうして色が変わるのでしょうか?その仕組みと酸性・アルカリ性について学びます。
環境工房 ひのきシートでつくる行燈	4月13日(土)	環境学習情報センター 分析実習室	3月16日(土)	尾鷲ひのきを薄く削った「ひのきシート」を使って行燈を作ります。シートを透して優しいあかりが灯ります。要参加費。
環境講座 バードウォッチング～冬編～	1月12日(土)	三重県上野森林公園	申込期間 12月14日(金) ～12月28日(金)	冬の里山の野鳥や池のカモを観察します。申込期間中に先着順で受付。申込先:三重県上野森林公園

センターへの来館・出前講座などで使える 環境講座

PICK UP 地球温暖化防止と省エネルギー講座



対象：小学4年生以上 時間：45分～90分

地球温暖化の原因と現状、更に温暖化がこのまま進行すると自然や社会生活にどのような影響が及ぶのかについて学びます。
また温暖化を防ぐために個人や家庭でできる省エネのポイントについてもお話をします。



まだある! 環境講座 水質チェック、大気調査講座、水生生物調査、自然体験、星のはなし、紙すき体験、ごみ・リサイクル講座、買い物ゲーム、風呂敷活用講座、エコソング「うたおう&おどろう」など

学校の授業、市民団体の学習会、公民館の講座、企業の環境学習に「環境講座」をご利用下さい。各講座ともセンターでの開催、各地に出前での開催が可能です。講座内容につきましては、ご希望に合わせ相談させていただきます。詳しくはセンターのホームページをご覧ください。
※原則として、希望日の1カ月前までにご連絡ください。出前講座については使用する消耗品のご準備をお願いしています。

三重県環境学習情報センター

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

Tel	(059) 329-2000
Fax	(059) 329-2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	http://www.eco-mie.com
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)
開館時間	午前9時～午後5時30分
入館料	無料 ※お気軽にお越し下さい



Facebook @eco_zou